

わがまち紹介

阪急電鉄の社名が

付いたまち『阪急正雀』

平成27年12月17日(木)

阪急正雀工場を訪問しました。心配していましたが、晴天でしたが例年の寒さになりました。

正雀・岸辺エリア

淀川右岸を大阪から京都迄並行して走るJR京都線と阪急京都線。両路線は、かなり近い場所を通っています。

梅田(大阪)を出てから両路線の駅が、一番近いのはJR「山崎」駅、阪急「大山崎」駅でわずか240m。次はJR「摂津富田」駅、阪急「富田」駅で300m。三番目に近いのが「岸辺」駅、阪急「正雀」駅だそう。

正雀・岸辺エリアは「三つの要因で分断」

JR「岸辺」駅と阪急「正雀」駅の間は約400mと大変近い。両駅周辺は、住宅地としての一体感があり感じられません。

理由は、

- ①行政区による分断
 - ②線路による分断
 - ③施設の敷地による分断
- だと思われま。

将来性の高いエリアです。

正雀川(しょうじゃくがわ)

正雀川は、大阪府吹田市および摂津市を流れる淀川水系の1級河川です。

開始点は、吹田市大字山田下字下正尺149番地。

この地名「正尺」が正雀川の名前の由来となつています。現在の住所表示では吹田市五月が丘北3丁目付近にあたり。

水田に水を引くために、流路を人工的に変えられており、複雑に屈曲している。また、流域に多数のため池が存在します。

千里ニュータウンの下水処理を行っていた正雀下水処理場などにより、下流部分の水質汚染が激しい。そのため、阪急正雀駅付近から安威川に合流する区間は、ユスリカが大量に発生した。対策として鯉が放流されているが、汚れた川のためか、放流されている鯉は、コイヘル(スウィルス病)が確認されるなど健康状態は良くない。

このほか、護岸の左右から島を張り出し、流れと深さに変化を持たせることによりユスリカの発生に適さない環境を整備したり、堤防上に電撃殺虫機を設置するなどの対策が取られていた。

今後、吹田操車場跡地の再開発計画に伴い下水処理場は、平成25年10月1日をもって機能停止されました。川の浄化が期待される。

阪急電鉄正雀工場

阪急電鉄正雀工場は、大阪府摂津市にある阪急電鉄(阪急)の車両工場。敷地内に隣接して阪急京都本線の車両基地、正雀車庫がある(正雀工場への入出場に際しては、一時的に正雀車庫に入庫する場合がある)。

所在地は「摂津市阪急正雀」と、阪急の社名が付く唯一の地名であり、国土地理院発行の地形図にも記載されている。阪急京都本線正雀駅の北西側一帯に広がる。

阪急電鉄および能勢電鉄の全営業用車両の検査・修理を行っている。阪急電鉄の全車両と大阪市営地下鉄堺筋線の新車搬入もここで行われる。

元は京都線所属車両のみの整備を担当していたが、正雀車庫の北側にあった工場敷地を購入して工場新築・拡張し、昭和43年に西宮工場と旧正雀工場を統合した。建築当時は東洋一とも呼ばれた整備工場。

平成16年には兵庫県尼崎市にあったアルナ工機の清算分割によってできたアルナ車両の工場も正雀工場内に入ってきた。

なお、工場内の業務の一部は、連結子会社であるアルナ車両と2社の協力会社(株式会社関西交通工業社、興国車輛株式会社)に委託されており、阪急電鉄と共に各社がISOの認証を取得している。

年2回、春と秋に家族連れを対象にした阪急レールウェイフェスティバルが開催されています。

36年前までは、日本国有鉄道(国鉄)の引き込み線が延びており、車両の甲種輸送も行われていた。以後はトレーラー輸送に変更された。当時の阪急用の標準軌と旧国鉄用の狭軌の三線軌条が現在でも工場内の一部(おもに廃車解体場など)に残っている。

摂津市と吹田市の市境を流れる正雀川をまたぐように設置されており、ホームの半分以上は吹田地域である。ただし駅舎は摂津市側に所在しています。

乗車ホームには欠番ホーム(1番ホーム)のある駅です。

ホームに隣接する車庫線は1号線としてカウントして

いるため、ホーム番号は2号線から設定されています。

ふるさと農園

VG概輪として自然農園を検討したのは今から9年前です。

当初は水田でしたが今では立派な畑の土になりました。初冬の12月は大根・かぶらや白菜などお正月用野菜の収穫時期です。



玉ねぎ、イチゴ、エンドウなどは根を張り、これから来る寒さに耐え、春に向かつて成長していく強い力をためて生長して欲しい。

記・写真 大岡成一

今更だより

知られざる

北陸秘境めぐりと秘湯

例年の行事として、私達千鈴会(ヤマカール)は晴天に恵まれて紅葉に染まる福井県池田町 足羽川溪谷に架かる。全長44m、高さ



12mのかずら橋を渡って、幽玄な雰囲気かただよう。パワースポット「平泉寺 白山神社」に参拝しました。白山の麓にある囲炉裏料理を楽しむ「白峰温泉 ホテル八幡」に宿泊した。



翌日は手取渓谷錦ヶ滝(落差33m)と紅葉の散策をした。たあと、白山白川郷ホワイロードで紅葉する山々を望む絶景ドライブを楽しんだあと、「ふくべの大滝」など林道を経て「五箇山合掌作り集落」を散策して帰路に就いた。

記・成本 ヒミカ